

Market Flash

分断されるアメリカ
～ナショナル・アイデンティティの危機～

2016.11



日本アルプス電子株式会社
NIHON ALPS ELECTRONICS CO.,LTD.



Market Flash



分断されるアメリカ ～どこに向かうアメリカ・・・？～

アメリカ大統領選挙はトランプ氏の圧勝(と言っていいであろう)となった。英国のEU離脱に次ぐ、いやそれ以上の衝撃で世界に伝えられた。それほど予想外の結果だったのだろうか？アメリカが求めたChangeとは何だったのだろうか？

イギリスもアメリカも本を正せばイギリス人文化、急増する移民にストップをかけるという意味でも選んだ結果は同じであった。ある新聞では、「米英のアングロサクソンの両国が導くグローバル化やエリート(支配層)に庶民が不満を募らせた結果だ」としていたが、果たしてそうだろうか？

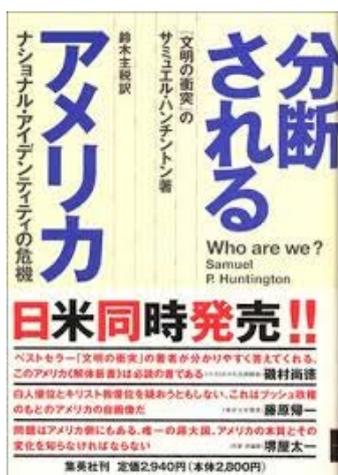
この結果は、格差問題ではなく(もちろんこのような面もあるが)、アングロサクソンのアイデンティティ、今回でいえば**アメリカのアイデンティティを取り戻したい**という意思の表れであったと思う。

"Make America Great Again"

これは、経済的にアメリカを再び強い国にしようということではなく、再びアメリカのアイデンティティを取り戻そうというメッセージではなかったのだろうか！

では、アメリカのアイデンティティとは何か？その答えはある著書に書かれている。

私は今回の大統領選挙の結果を受けて、ある著書のことを頭に浮かんだ。2004年に日本語訳が出版された「**分断されるアメリカ**」だ。著者はサミュエル・ハンチントン氏だ。あの「**文明の衝突**」の著者で知られている作家である。この著書で、アメリカという国の独特のアイデンティティが、どのようなもので、いかにして生まれ、そして、歴史とともに変わりゆく様子を克明に分析して説明している。そして、このままでいけばアメリカは分断される可能性があるとしている。このような**薄れゆくアメリカのアイデンティティを取り戻そうとする力**、それが、今回のトランプ氏の勝利につながった。そして、トランプ氏の選挙戦での公言が実行されるならば、まさに、アメリカは分断されるのである。今回もう一度読み返してみて、その概略を今回のレポートにまとめてみた。その正確な分析に改めて驚かされた。





Market Flash



分断されるアメリカ ～どこに向かうアメリカ・・・？～

「分断されるアメリカ」

まず、最初に著者が記した「はじめに」の概要をご紹介します。そこにまさに今回のような変動を連想させるような内容となっている。

アメリカ人は自分たちのアイデンティティの実体を、人種、民族性、イデオロギー、文化によって定義してきた。また、「アメリカの信条」(トーマス・ジェファソンによってまとめられたもの)は、アメリカのアイデンティティを定義づける重要な要素と一般に見なされている。だがこの信条は、17世紀と18世紀にアメリカに入植してこの国を築いた人たちの、アングロ・プロテスタント独自の文化の産物だった。その文化の主たる要素には、英語、キリスト教、信心深さ、法の支配に関するイングランドの概念、支配者の責任、個人の権利、などなどである。

このアングロ・プロテスタントの文化は3世紀にわたってアメリカのアイデンティティの中心をなしてきた。それこそアメリカ人に共通するものであり、多くの外国人が述べてきたように、他の国民とアメリカ人を区別してきたものでもあった。

ところが、20世紀末になると、この文化の顕著性は、中南米やアジアから新しい移民の波が押し寄せたことによって挑戦を受けた。

あるいは、

①知識人や政治家の間で多文化主義と多様性を重視する政策が人気を博したこと

⇒これまでは人種と民族性がアイデンティティの要素であったが、アメリカは多民族、多人種社会であるとする政策に転換していったのである

②アメリカの第二言語としてスペイン語が普及してアメリカ社会の一部がヒスパニック(スペイン語を母国語とする集団)化したこと、

⇒このヒスパニック化によってアメリカ社会が二分化し、従来のアメリカのアイデンティティの定義が大きく変わったことがアメリカ社会全体の不安定さにつながっていると著者は指摘している

③人種、民族性、ジェンダー(性別)をもとにした集団的なアイデンティティが主張されたこと

⇒かつてのような「アメリカの信条」に基づく一本化されたアメリカのアイデンティティではなくなったということである。

④エリート集団がますます世界主義的でトランスナショナルなアイデンティティを持つようになったこと

⇒これがまさにグローバル化である。グローバルに展開する企業の経営者は世界主義的な考え方をもち、決してアメリカ一国だけのためにビジネスを展開するということではなくなったということである。税金逃れのタックスヘブン企業が又にも典型例であろう。



Market Flash



分断されるアメリカ ～どこに向かうアメリカ・・・？～

このような挑戦に応じて、アメリカのアイデンティティは次のような方向に発展していくであろう。

(1) 信条に基づくアメリカ

歴史的な文化の中心を失い、アメリカの信条の原則に対する共通の義務によってのみ結び付けられらもの

(2) 二分化されたアメリカ

スペイン語と英語という二つの言語と、アングロ・プロテスタントとヒスパニックという二つの文化を持つもの

(3) 排他主義のアメリカ

再び人種と民族によって定義され、ヨーロッパ系の白人以外を排除するか従属させるもの

(4) 活気を取り戻すアメリカ

伝統的なアングロ・プロテスタントの文化、信仰心、価値観を再確認し、非友好的な世界と対峙することで強化されるもの

(5) これらや他の可能性をいくつか組み合わせたもの

アメリカ人が自分たちのアイデンティティをいかに定義するかが、ひるがえって世界の国々との関係の中でアメリカをどの程度、世界主義的な国として、あるいは帝国主義やナショナリズムの国としてみなすかという問題にも影響を及ぼすのである。

どんな社会も、その存在(愛国心)を脅かす脅威にたびたび直面するものであり、やがてはそれに屈服することになる。それでも、深刻な脅威にさらされながら、衰退のプロセスを止め、あるいは逆行させて崩壊を遅らせる社会もある。アメリカにはそれが可能だと、私(ハンチントン氏)は考える。過去三世半にわたってあらゆる人種、民族、宗教のアメリカ人によって受け入れられてきたアングロ・プロテスタントの文化と伝統及び価値観に、アメリカ人はもう一度立ち返るべきなのだ。これらのものこそ、自由、統一、力、繁栄の根源だったのであり、そして世界における持続した勢力として道徳的なリーダーシップを発揮してきたもとだったのである。

ここで明言しておくが、これはアングロ・プロテスタントの文化の重要性についての主張であり、アングロ・プロテスタントの人々の重要性を述べるものではない。アメリカが成し遂げた功績の一つ、おそらく最大の功績そのものは、歴史的にこの国のアイデンティティの中心をなしていた人種と民族性という要素をここまで排除してきたことであり、各人はその長所によって評価されるべきとする多民族、多人種の社会になったことだと、私は考える。

思うに、それが成し遂げられたのは、何世代にもわたるアメリカ人がアングロ・プロテスタントの文化とこの国を築いた入植者たちの「信条」を奉じてきたからなのである。こうした信念を持ち続けられれば、建国者たちのWASP(アングロ・サクソン系白人新教徒)の子孫が影響力を持たない少数派になったのちも、アメリカは末永くアメリカであり続けるだろう。

それが、私の知る、私の愛するアメリカなのだ。

著者が望んだアメリカは、たとえ先述の(2)二分化されたアメリカになったとしても、(1)アメリカの信条を信じ、多民族、多人種で(4)活気のあるアメリカであり、それを築くことができると信じているのである。

しかし、今回のトランプ氏の主張は、メキシコからの移民やイスラム教徒を排除するような(3)排他主義のアメリカを目指しているように聞こえる。



Market Flash



分断されるアメリカ ～どこに向かうアメリカ・・・？～

アメリカのアイデンティティの構成要素

この内容は非常に難しいものであるが、著書の中でポイントとなった点を抜粋してみた。(かなりつまみ食いをしているという感じであるがお許しください)

アメリカのアイデンティティを形づくる要素は、「移民」と「信条」である。一連の政治的な原則である「アメリカの信条」は、移民によってもたらされた多様な民族性を統一するといわれている。

アメリカは17世紀18世紀の入植者によって築かれた社会である。彼らはほぼ全員がイギリス諸島からやってきた。彼らの価値観と制度及び文化が、のちの時代におけるアメリカの土台となり、その発展に影響を及ぼした。入植者たちは当初、人種、民族性、文化、そしてとりわけ宗教の面からアメリカを定義づけていた。18世紀になると、アメリカをイデオロギー面からも定義づけ、祖国の人々からの独立を正当化しなければならなくなった。

これらの4つの要素(人種、民族性、文化、宗教)は、「ほぼ19世紀を通じてアメリカのアイデンティティの一部として残っていた。19世紀末には、民族的な要素の許容範囲が広げられ、ドイツ人、アイルランド人、スカンディナヴィア人が含まれるようになった。第二次大戦が勃発して、南欧と東欧からの移民とその子孫が大量にアメリカ社会に同化することになると、ナショナル・アイデンティティを構成する決定的な要素から、民族性はほとんど消え去った。

公民権運動が突って、1965年に移民法が成立すると、人種もはや問題にされなくなった。その結果、1970年代には、アメリカのアイデンティティは文化と信条の縁から定義されるようになった。この時点で、3世紀にわたって存続してきたアングロ・プロテスタントの中心的文化も危うくなり、アメリカのアイデンティティは信条に対するイデオロギー的な誓約だけになる可能性が生じた。

「移民こそがアメリカの歴史だった」「先住民を除くすべてのアメリカ人は移民快眠の子孫である」と言われるが、反ハンチントン氏は、アメリカの革命を起こしたのは、移民の子孫ではなく入植者である。アメリカは、17世紀から18世紀にかけて新世界にやってきた入植者による社会である。アングロ・プロテスタントの入植者による社会としての起源は、何よりも深く恒久的に、アメリカの文化、制度、歴史的発展、及びアイデンティティをかたちづかった。

アメリカの中核にある文化はこれまでも、また現在もなお、主としてアメリカの社会を築いた17世紀及び18世紀の入植者たちの文化である。その文化の中心的文化な要素は様々な方法で定義できるが、そこにはキリスト教の信仰、およびヨーロッパの芸術、文学、哲学と音楽の遺産が含まれている。

この文化をもとに、初期の入植者はアメリカの信条を築き上げ、そこに自由、平等、個人主義、人権、代議政体、そして私有財産の原則を盛り込んだ。その後やってきた移民は何世代にもわたってこの建国の入植者の文化に同化し、それに貢献し、手を加えていった。だが、その信条を根本的に変えることはなかった。それは、少なくとも20世紀末まで、移民をアメリカに惹きつけていたものがアングロ・プロテスタントの文化とそこから生み出される政治的自由と経済的な機会だったからだ。

このようにアメリカの文化、信条は入植者によって形づくられ、移民によって受け継がれてきたものである。入植者だった祖先のアングロ・プロテスタントの文化は、アメリカのアイデンティティを決定づける優先的要素として300年にわたって生き残ったのである。



Market Flash



分断されるアメリカ ～どこに向かうアメリカ・・・？～

しかし、その移民もかつて法律で禁止されていた時代もあった。

南北戦争後に鉄道が建設されたことから、中国人労働者が大量に移民してきた。これにともなって、大勢の中国人娼婦もやってきたとされ、1875年にアメリカは娼婦と犯罪者の移民を禁ずるための法律を制定させた。1882年には、中国からのすべての移民が10年間禁じられた。

20世紀初頭には日本からの移民も問題になり、1908年にセオドア・ルーズベルト大統領は日本に紳士協定を持ちかけ、日本は移民を控えることを約束した。

実際にアメリカは20世紀半ばまでは白人社会だったのである。1921年議会は移民を極度に制限した一時的な措置を承認し、1924年には移民の上限を年間15万人とする恒久的な措置を取り、それを1920年にアメリカ人を構成していた人々の民族的出自別に割り当てた。その結果、82パーセントの枠が北欧及び西欧諸国に当てられ、16パーセントは南欧及び東欧となった。この措置は、1965年まで撤廃されなかった。

「アメリカの信条」とは？

アメリカの信条という言葉は、1944年にガンナー・ミュルダールが著書「アメリカのジレンマ」の中で有名なものにした。アメリカの人種、宗教、民族、地方、経済における異種混合性を指摘した彼は、アメリカ人にはそれでも「共通のもの」があるとし、それは「社会の気風であり、政治的な信条」だと主張した。それを「アメリカの信条」と名付けた。

多くの学者が信条を定義したが、共通していることは、「個々の人間の本質的な尊厳と、すべての人の基本的な平等と自由と正義及び平等な機会に対する譲ることのできない権利」である。ジェファソンは人の平等と譲ることのできない権利、さらに「生命と自由および幸福の追求」を独立宣言に盛り込んだ。

American Dreamはこの平等の機会によって誰もがつかむことのできる夢である。この根底にあるのがアメリカの信条だったのである。

アメリカが非常に多様さをもつ国、急速な変化の国であると指摘する己とは常識となっている。しかし、Eの国10は強固な統一がある。民族的背景、階級、地方、信仰、皮膚白色を異にするすべて白アメリカ人が共有する何かがある。それは一箇白社会的エトス、政治的信条である。こゝ由「アメリカ的信条」Eそ複雑な構成をもつ己白大きな国白接合剤な也である。ガンナー・ミルタリレ『アメリカ白デイレマ』（1944年）



Market Flash



分断されるアメリカ ～どこに向かうアメリカ・・・？～

アメリカのナショナリズムの台頭。勝利、衰退

イギリス人が入植してから独立戦争までは、ほとんどがイギリス人であり、バージニア、ペンシルベニア、ニュートーク、マサチューセッツといったそれぞれの植民地への帰属意識が強く、広い意味ではイギリスの王室にささげられていたといってみいである。

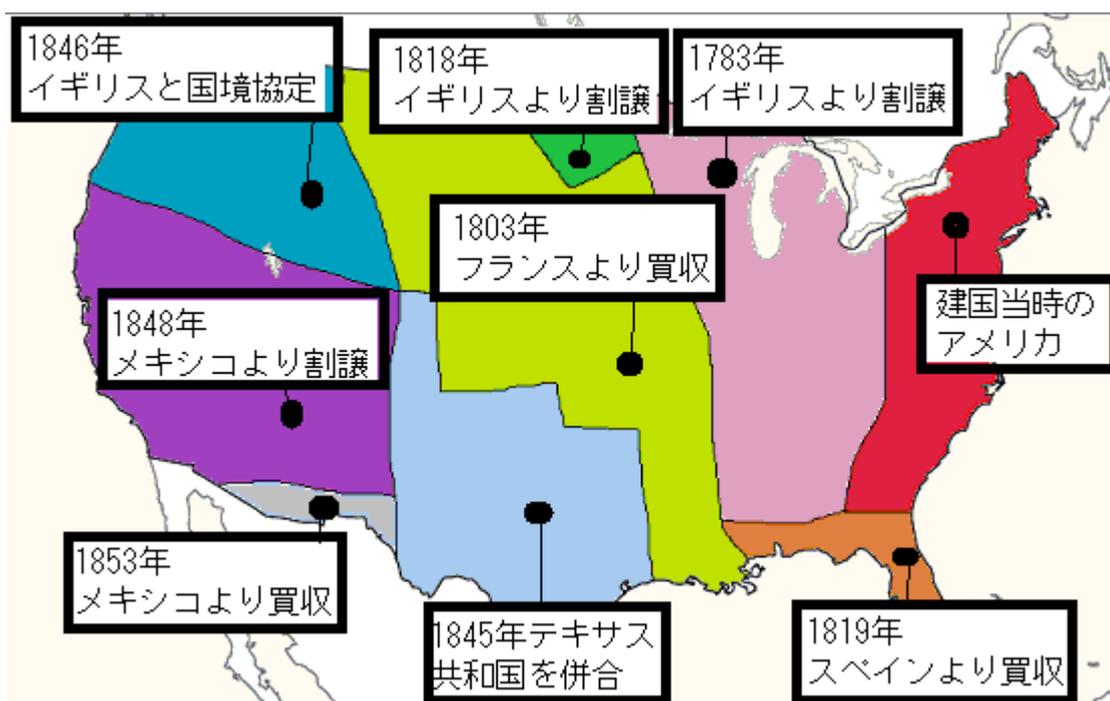
アメリカ人としてのアイデンティティという集団意識が芽生えたのは独立革命に至る数十年間のことだった。

次の段階では、アメリカが独立し、親英派は国外へ移住し、イギリスのアイデンティティを主張する人がいなくなったが、各州への帰属意識は相変わらず強かった。(ここではまだ一つのアメリカにはなっていなかった)ナショナル・アイデンティティはますます疑問視されていた。

三段階目は、南北戦争後、ナショナル・アイデンティティの優位が確立した。1870年代から1970年代にかけての時期は、アメリカにとってナショナリズムが勝利を収めた1世紀だった。

1960年代と70年代に、ナショナリズム・アイデンティティの優位は脅かされ始めた。新たにやってきた大量の移民が元の国と密接なつながりを保ち、二重の忠誠と二重の国民性、およびしばしば二重国籍も持ち続けられるようになったからである。多くのアメリカ人にとって、サブナショナル・アイデンティティや、人種、民族、性別、文化ごとのアイデンティティが新たな重要性を持つようになった。アメリカの知識人、政界及び産業界のエリートたちの国への貢献度はますます低下し、トランスナショナル及びサブナショナルな忠誠の主張が優先されるようになった。(グローバル化により、米国だけに目を向ける経営者はいなくなった。⇒トランスナショナルと表現している)

⇒移民とグローバル化がアメリカのアイデンティティを希薄化させた





Market Flash



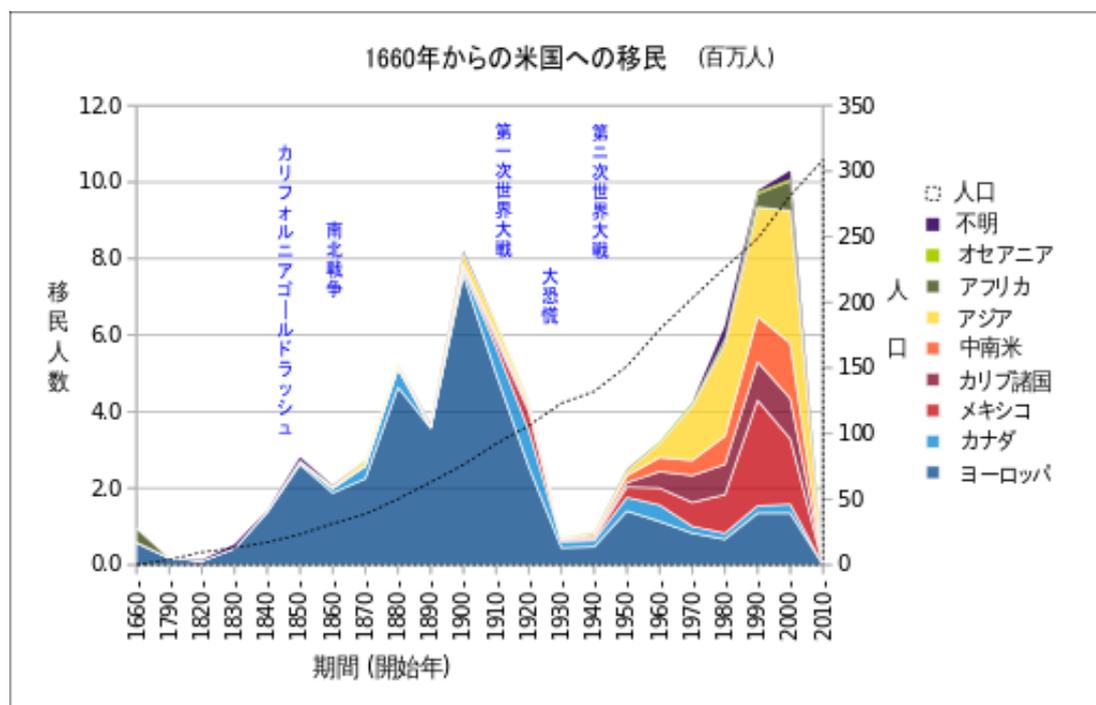
分断されるアメリカ ～どこに向かうアメリカ・・・？～

9. 11は第四段階を突如として終わらせ、ほぼすべてのアメリカ人に対し、他のアイデンティティに対するナショナル・アイデンティティの優位を劇的に復活させた(アメリカが一つにまとまった)

2年後、ナショナル・アイデンティティのこの新しい卓越性は薄れはじめた。おそらくこのプロセスは続き、アイデンティティの第四段階のパターンが再現されるであろう。

あるいは、攻撃に対するアメリカの新たな弱みがさらけ出され、国土の安全保障に多くの課題が生まれ、周囲の世界がおおむね非友好的であることに気づけば、アメリカ人にとって自分たちの国の重要性に新たな、異なった段階が生まれる可能性もある。

この著書が書かれた段階では、一時は9. 11で全米がまとまったが、2年後にはすぐに薄まってきたと感じている。そして、現在は、ハンチントン氏の言う通り、その後のアメリカはますます二極化が進み、増え続ける移民に白人が職を奪われるという意識が高まっていったのである。そして、今回のトランプ氏の勝利につながっていくのである。





Market Flash



分断されるアメリカ ～どこに向かうアメリカ・・・？～

ハンチントン氏は著書の中で次のようなことも述べている。

1960年代以降の数十年の間に、アメリカの中心となるアングロ・プロテスタントの文化と、自由と民主主義を謳う政治的な信条は4つの難題に直面した。

1. ソ連崩壊によってアメリカの安全保障に対する重要かつ明らかな脅威がなくなり、そのためにナショナル・アイデンティティの顕著性が減少した(世界に貢献するアメリカの役割が薄らいでいった)
2. 多文化主義と多様性のイデオロギーによって、アメリカのアイデンティティの中心であるアメリカの信条の正当性が蝕まれていった。
3. 1960年代にアメリカに第三の移民の大波が始まり、それによって以前の波のようにヨーロッパからではなく、主に中南米とアジアから人々がアメリカにやってきた。これらの移民の場合、母国との絆を保ちつづけ、母国の文化を保ち続けた。
4. アメリカの歴史上、移民の過半数近くが英語以外の同一言語を話していたことはこれまでになかった。スペイン語を話す移民が優勢であることの影響は、継続的に強まっていった。

また、ハンチントン氏はこの著書を書いた2004年(執筆時点は2002年ごろ)に、今後のアメリカのアイデンティティの在り方について4つの方向性を示している。

1. **アメリカはその核となる文化を失い、多文化的になる。**それでも、アメリカ人は「信条」の原則を守り続け、それが国としての統一性とアイデンティティのイデオロギー的あるいは政治的な基礎を与えてくれる可能性もある。
2. 1965年以降における大量のヒスパニック系移民によって、アメリカは言語面(英語とスペイン語)及び文化面(アングロ対ヒスパニック)でますます**二分化される**かもしれない。
3. 様々な勢力がアメリカの中心的な文化と信条を脅かすようになると、**アメリカ生まれの白人が、これまで疑問視され放棄されていたアメリカのアイデンティティの人種的、文化的に異なる人々を締め出して追い払う、あるいは抑圧するアメリカを作り出す**かもしれない
⇒これがまさにトランプ現象の表れではないだろうか
4. **あらゆる人種と民族のアメリカ人が、自分たちの中心的な文化をよみがえらせる**かもしれない。それはとりもなおさず、きわめて信仰心が高く、いくつかの宗教的マイノリティを含みながらの、主にキリスト教徒からなる国家としてのアメリカを取り戻すことを意味する。



Market Flash



分断されるアメリカ ～どこに向かうアメリカ・・・？～

メキシコ移民とヒスパニック化

20世紀半ばに、アメリカは多民族、多人種の社会になり、アングロ・プロテスタントの主流文化が多数のサブカルチャーを包含し、その主流文化の根底に共通した政治的信条を持つ社会となった。

20世紀末になると新たな展開が見られ、それが続けば、アメリカは文化的に二分化され、二つの公用語を持つアングロ・ヒスパニックの社会へと変貌する可能性が生じた。

この傾向は、一つには知識人と政界のエリートの間で多文化主義と多様性の原則がもてはやされた結果であり、またこうした原則を促進し承認した二言語教育関連の政府の施策の結果であった。だが、文化的な二分化傾向をさらに推し進める言動力となったのは中南米からの移民である。とりわけメキシコからの移住者だった。

メキシコの移民は、アメリカが1830年代と40年代にメキシコから武力で奪った土地を、人口学的に再征服する方向へと進んでおり、フロリダ南部で起こっているキューバ化とは異なるが、それに匹敵する形でこの地域をメキシコ化している。メキシコ移民はメキシコとアメリカの国境線をあいまいにしており、双方の社会や文化の違いをなくしたうえ、一部の地域ではアメリカとメキシコの混合社会と混合文化の出現を促している。メキシコ移民は他の中南米諸国からの移民とともに、アメリカ各地でヒスパニック化を推進し、アングロ・ヒスパニックの社会にふさわしい社会、言語、経済の慣行を広めている。

メキシコ移民はなぜ異なっているのか

現代のメキシコ移民のようなケースは、アメリカの歴史で前例を見ない、その原動力と結果を理解するうえで、過去の移民の経験と教訓はほとんど役に立たない。メキシコ移民は過去の移民とも、現代の他の移民の多くとも、重なり合った6つの要因ゆえに異なっている。

1. 陸つづき

アメリカ人が思い描く移民像は、自由の女神やエリス島に象徴されるものであり、禁煙では例えばケネディ空港にあらわされるものだ。しかし、メキシコの場合は、このようなイメージとは無縁だ。アメリカが今直面しているのは、**貧しい陸続きの国から大量の人間が流入してくるという事態だ**。その国の人口はアメリカの3分の1を上回り、流入してくる人々は、3200キロの及ぶ国境を越えてやってくる。

メキシコとアメリカの国境の重大性は、両国の経済格差によってさらに高まっている。「**アメリカとメキシコの所得格差は、世界中の陸続きの2か国間の格差としては最大である**」と、スタンフォードの歴史学者デビッド・ケネディは指摘する。移住者が3200キロの外洋ではなく、**さほどの障害がない3200キロの国境を越えてくることの意味は、移民を取り締まり管理するうえでも、国境にまたがる共同体が出現するにつれて国境線があいまいになる点でも、アメリカの南西部の社会、住民、文化、経済にとっても、アメリカ全体のとっても計り知れないものである。**



Market Flash



分断されるアメリカ ～どこに向かうアメリカ・・・？～

2. 多数であること

メキシコ人の場合、移民に伴う犠牲も難題も危険も、他国の人々との場合よりもはるかに小さい。

メキシコからの移民は1965年以降、着実に増えてきた。1970年代には約64万人のメキシコ人が合法的にアメリカに移住し、80年代にはその数が165万6000人に、90年代には224万9000人に増えた。

1960年の主要な移民

イタリア:125万7000人 ドイツ:99万人 カナダ:95万3000人 イギリス:83万3000人 ポーランド:74万8000人

2000年の主要な移民

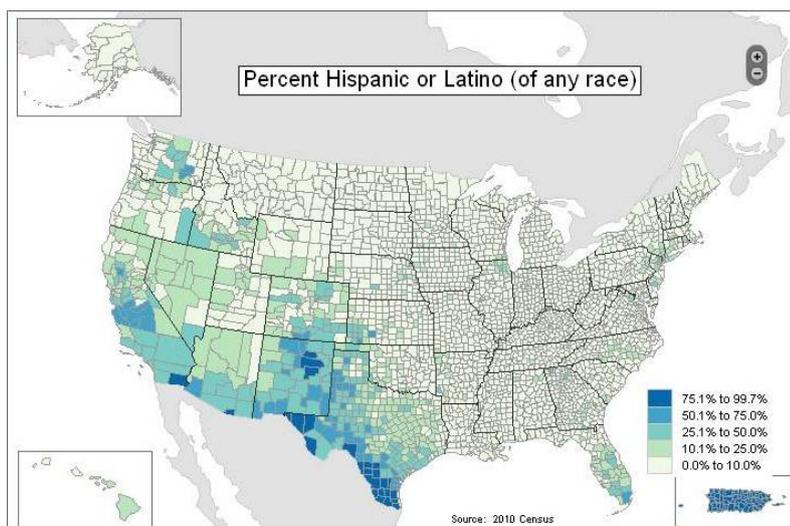
メキシコ:784万1000人 中国:139万1000人 フィリピン:122万2000人 インド:100万7000人 キューバ:95万2000人

1990年代には、メキシコ人はアメリカへ移住するラテンアメリカ人の過半数を占めており、ラテンアメリカの移民は1970年から2000年までに渡米してきた移民全体のほぼ半数に相当した。

2000年にはアメリカの全人口の12パーセントに達したヒスパニック(そのうちメキシコ人が3分の2を占める)は、2000年から2002年委約10パーセント増加して黒人よりも多くなった。

⇒2010年の人口統計によると、ヒスパニックが16.3% 黒人は12.2%と逆転している。

2040年委はヒスパニック系が人口の25パーセントを占めると予想される。





Market Flash



分断されるアメリカ ～どこに向かうアメリカ・・・？～

3. 不法であること

アメリカへの不法入国は、1965年以降のメキシコ人に多く見られる現象だ。1965年の移民法と交通手段の増加、およびメキシコ人の国外移住を促す力が激化したことから、この状況は劇的に変わった。アメリカの国境警備隊による逮捕者の数は1960年代の160万人から、80年代には1190万人に、90年代には1290万人に増加した。

メキシコ人は1990年にアメリカ国内にいる全不法滞在者の58パーセントを占めていた。不法移民は、圧倒的にメキシコ人なのである。

4. 局地的な集中

ヒスパニックは局地的に集中する傾向にある。南カリフォルニアのメキシコ人、マイアミのキューバ人、ニューヨーク市のドミニカ人およびプエルトリコ人など

5. 持続性

過去の移民の波見は次第にしりすぼみになり、各国から渡米してくる割合大きく変動した。しかし、現在の流れは今のところ退潮の兆しが見えず、その流れの大部分をメキシコ人が占めている現状は、大規模な戦争や景気後退もないとなれば、しばらく持続しそうだ。

⇒トランプ大統領になって大きな転換点を迎えるだろうか

6. 歴史的に存続してきたこと

アメリカの歴史の中で、アメリカの領土に対する過去の所有権を主張した、または主張できる移民集団がこれまで存在しなかった、メキシコ人とメキシコ系アメリカ人はそれが可能であり、実際にそうした主張をしている。テキサス州のほぼ全土、ニューメキシコ、アリゾナ、カリフォルニア、ネバダ、およびユタの各州は、メキシコが1835年から36年のテキサス独立戦争と1846年から48年の米墨戦争でこれらの土地を失うまで、メキシコ領土の一部だった。

メキシコはアメリカが侵略し、首都を占領した唯一の国であり、「モンテスマの城」に海兵隊を配備し、その領土の半分を併合した国だ。メキシコ人はこうした出来事を忘れてはいない。当然ながら、彼らはこれらの領土に特別な権利があると感じる。

アメリカのアイデンティティへの同化

同化の度合いを測る最終的な基準は、移民がどれほど国としてのアメリカに帰属し、アメリカの信条を信じ、その文化を自分のものとするか、またそれに応じて他国及びその価値観と文化への忠誠をどこまで否定するかということだ。

ヒスパニック系の移民、特にメキシコ人はアメリカのアイデンティティには同化せず、スペイン語を話し、自らの文化をアメリカに持ち込み、独自のアイデンティティを維持しているのである。

このことは、アメリカという国を分断し、国民性を分裂しつつあるのである。



Market Flash



分断されるアメリカ ～どこに向かうアメリカ・・・？～

これまで見てきたようにアメリカのアイデンティティをめぐる問題には、移民問題が根底にあることが分かる。ハンチントン氏の「分断されるアメリカ」では、詳細にその分析を行っているが、それ以外にも9.11以降のアメリカの変化やグローバル化における一部のエリートと大衆との格差もアメリカのアイデンティティを希薄化させている原因だとしている。

そして、アメリカは様々な意味で大きく変わったのである。そして、アメリカ人は今再び、「私は誰？」と問いただしているのである。「アメリカ人とは誰なのか？」「私はいったい誰なのか？」「アメリカの信条とは何なのか？」

"Make America Great Again"

のアメリカとは何かをトランプは問いかけたのだ。

トランプ大統領はアメリカをどのような方向に導こうとするのか。

選挙戦の発言は完全に排他的な方向を示している。メキシコの壁、不法移民の強制退去、イスラム教徒の入国禁止などを実施するのであれば、アメリカは大戦前の白人を中心とするアイデンティティを取り戻そうとする意向と考えられる。

今回の選挙はアメリカが抱える大きな問題を浮き彫りにした。浮き彫りにしただけで何も変わらないのか？アメリカを取り戻すのか？

トランプ大統領の来年からの動きから目を離せない。